資料１

全国学力・学習状況調査のCBTでの実施の振り返りと今後の改善について

令和８年10月26日

文部科学省学力調査室

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント

❶ 令和８年度全国学力・学習状況調査の概要



令和８年８月
文部科学省・国立教育政策研究所

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる



- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する



調 査 概 要

調査実施日	令和８年４月20日(月)～５月29日(金)
調査対象	小学校６年生、中学校３年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数･数学、**英語（中学校のみ）**〕 / 質問調査 **※令和５年度以来の実施** ②学　　校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（４技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和５年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

結果公表スケジュール

結果公表①
（正答率・IRT バンド分布などの全国平均）

結果公表②
（全国データに基づく分析結果）

結果公表③
（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

全国（国公私）の平均正答数（率）・平均IRTスコア

小学校				中学校						
国語		算数		国語		数学		英語４技能		（参考）英語３技能
7.9/13 問 (61.1%)		9.1/16 問 (56.6%)		9.6/15 問 (64.2%)		9.2/16 問 (57.4%)		499		502
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
57.7%	65.2%	58.3%	55.5%	60.7%	68.6%	57.0%	58.9%	490	510	－

※中学校英語はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の英語４技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校500校分のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」の３技能を統合したIRTスコアを返却。

② CBT調査の実施状況（中学校英語）

（１）学校単位の実施状況

	中学校英語を実施した学校数		中学校英語を実施しなかった学校数（※）			計
	調査実施日に調査を実施し、完了した学校数	後日実施を行い、完了した学校数	ネットワーク・端末の理由	準備面の理由	その他	
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	9,349校（98.0%）	156校（1.6%）	0校（0%）	1校（0.01%）	29校（0.3%）	9,535校
英語「話すこと」	9,461校（99.5%）		0校（0%）	1校（0.01%）	42校（0.4%）	9,504校

※ 実施しなかった理由
- ◆ 準備面の理由 ： MEXCBTの登録申請が遅れた
- ◆ その他 ： 対象生徒の体調不良等

（２）生徒単位の実施状況

	調査実施日に調査を実施し、完了した生徒数	後日実施を行い、完了した生徒数	計（調査完了生徒総数）
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	861,464人	15,065人	876,529人
英語「話すこと」			863,794人（※）
（参考）中学校国語	864,717人	15,500人	880,217人
（参考）中学校数学	865,360人	15,458人	880,818人

※ 英語「話すこと」は、当日実施校(46,645人)と期間内実施校(817,149人)の実施人数の総数。

（３）配慮版プログラムの使用状況

	拡大文字問題プログラム	点字問題冊子	代筆解答プログラム	時間延長プログラム	ルビ振り問題プログラム	スクリプト表示プログラム
英語「聞くこと」	644人	23人		177人	11,651人	
英語「読むこと・書くこと」	725人	23人		119人	12,441人	
英語「話すこと」	294人	21人	16人		9,331人	96人

令和7年度の改善点を踏まえた令和8年度中学校英語CBTの主な対応

令和7年度中学校理科CBTで整理した改善点を踏まえ、令和8年度中学校英語CBTでは、解答データの回収、実施日程、学校への事前支援等について改善。併せて、音声を用いる英語調査特有の課題に対応した実施方法を導入した。

令和7年度に整理した改善点	令和8年度に実施した主な対応
① ヒューマンエラー・未送信データへの対応	・問題配信・解答データ送信等のエラー事例と、考えられる対応を周知 ・提出できなかった解答データも出力・採点できるよう、MEXCBTを改善 ・英語「話すこと」は、解答後に手動で次のページへ進む方式に変更
② トラブル時の再実施機会の確保	・「聞く・読む・書くこと」に予備日(4/24)を設定 ・「話すこと」はネットワーク負荷を考慮し、約1か月で分散して実施
③ 柔軟な参加機会の確保	・CBTにより学校外実施が可能であることを周知 ・「聞くこと」はヘッドフォン・イヤホンの個別使用により実施

事前検証

・対象：R8英語を実施する全生徒
・本番に近い環境で実施
・MEXCBTへのログイン、問題閲覧、単語入力、発話音声の録音・再生等を確認

出典）令和8年度全国学力・学習状況調査のCBT方式での実施（中学校英語）に向けた事前検証の実施について（令和8年1月28日付事務連絡）

「話すこと」の分散実施

・4/24・27：当日実施校 500校程度
・4/28～5/29：期間内実施校 約9,000校
・ネットワーク環境等を考慮して分散

出典）令和8年度全国学力・学習状況調査に関する準備のための「学校基本情報の確認（C）・（D）」及びCBT方式での実施に関する実施希望日の調査について（令和7年12月19日付事務連絡）

学校外実施への支援

・学校は、児童生徒・保護者等と相談の上、学校外で調査に参加する場合の実施場所を検討するとともに、事前検証等を通じ、使用する端末、ネットワーク環境、ヘッドセット等を確認。

令和9年度CBT実施に向けた取組

令和9年度は、小学校を含め悉皆調査がCBTに全面移行。CBTによる調査の対象・規模が大きく拡大することから、安定的な実施に加え、結果返却を更に充実させる必要がある。

安定的な実施に向けた課題

①小学校への初導入・複数教科の実施

・小学校の教科調査を初めてCBTで実施
・小学生を含む文字入力・数式入力等の操作への対応

②学校ごとに異なるICT環境での安定実施

・学校ごとに異なる端末、OS、ネットワーク環境への対応
・複数教科実施時のバッテリー消費、充電・予備端末
・音声・動画の再生、周辺機器の安定利用・アクセスポイント、フィルタリング等を含む通信環境
・トラブル時の予備日・後日実施への円滑な移行

③CBTの特性を生かした出題の充実と、操作負担の軽減

・中学校国語では一部、音声を活用した出題を導入
・国語では小中学校ともに、紙の資料を併用
・スクロール、タブ切替え、ドラッグ＆ドロップ等の操作性
・端末操作の差による解答（回答）の差が生じないような画面設計
・質問調査における無回答率の改善

④多様な児童生徒への対応

・特別な配慮を必要とする児童生徒へのCBT上の対応
・拡大文字、ルビ、時間延長等の問題プログラム
・OS・ブラウザのアクセシビリティ機能や支援機器との組合せ
・学校外実施における端末・通信環境、支援方法
・児童生徒の状況に応じた柔軟な参加機会の確保

CBT・IRTを生かした分析・結果返却に向けた検討

A　測定・分析の高度化

【CBT・IRTの特性を生かし、より精緻で持続可能な学力測定へ】

・安定した経年比較を行うため、アンカー項目や尺度接続等への対応を検討

B　結果返却・指導改善への活用

【IRTスコアを、学校・児童生徒の改善につなげられるか】

・IRTスコア/IRTバンドについて、意味や見方を分かりやすく提示
・IRTバンド別の解答状況等を活用し、つまずきの特徴や学力層ごとの課題を可視化
・学校・児童生徒にとって、どの情報が指導改善・学習改善に有用かを検証
・CBTを活かしつつ、分かりやすさと情報量のバランスを踏まえた帳票・説明方法を検討